教育研究所だより

No.236 令和5年 10 月6日　【発行者】守山市教育研究所 所長 脇阪 久徳
守山市勝部三丁目９番１号（守山市生涯学習・教育支援センター 愛称：エルセンター 3・4 階）
TEL：077-583-4217　FAX：077-583-4237
E-mail：kyoikukenkyu@city.moriyama.lg.jp
ＨＰ：http//www.city.moriyama.lg.jp/kyoikukenkyu_index.html

【特集】 守山市教職員夏期研修講座

今年度は研修講座の数を増やしたり、経験年数に応じてステージを設定したり、より主体的に研修を選択できるようにしています。「実践力形成ステージ」では、ワークショップなどを多く取り入れ実践力の向上につなげ、また「発展・深化ステージ」では、今までの知識をアップデートすることができる機会となり、実りの多い研修となりました。受講者の感想を一部掲載します。

生徒指導・教育相談研修講座

（敬称略）

実践力形成	A-2 7/25(火)	【ゲートキーパー研修】 悩みのある方への関わり方を知ろう	すこやか生活課 保健師 竹村 優花
		・自殺に至るまでの経緯について、心理面、環境面の両方から学ぶことができ、自身の学びや関わる子どもたちに対して適切な言葉がけや関わり方を知る機会になった。 ・この講座を聞き、助言や安易な励ましはしないで、しっかり寄り添い、受け入れてあげることが大切だと学ぶことができた。	
	A-3 7/26(水)	今、生徒指導・教育相談で求められる視点 ―子どもたちの社会的自立を支えるために―	滋賀県教育委員会 SC SV 臨床心理士・公認心理士 安藤 りか
		・子どもたちの不適応行動の背景には家庭での事情や過去のトラウマが関係しているかもしれないとトラウマのメガネで見ていくことが大切だと思った。 ・子どもたちの背景にある逆境体験を適切に把握し、正確なアセスメント、正しいエネルギー充電の仕方が大切であることを改めて学ぶことができた。	
	A- 4 8/9(水)	生徒指導(いじめ・不登校等)の現状と 教職員として大切にしたいこと	学校教育課 指導主事 木村 有貴
		・不登校の生徒は、次年度もその半数は継続して不登校になるという話があり、不登校になる前の関わり、対応が大切だと感じた。その生徒の背景を知るうえで、家族関係を知るということが大切だと学んだ。 ・生徒指導にしても不登校にしてもすぐに即効性の対応や答えを求めてしまうが、一番大切にしていくことがぶれなければ、自然と何かいい方向に向かっていくことがわかった。	
発展・深化	E-1 8/1(火)	思春期のメンタルヘルス	湖南病院 医師 辻川 紀恵
		・生体の3つのモード(リラックス・戦闘態勢・フリーズ)で整理するといろいろな事象が明確に説明できることがわかった。 ・「そのときのその子の精一杯の反応」が、今目の前の子の「不適応」とされる行動なのだということを教えてもらった。まずは、「安心・安全」な環境の中で、「失敗」している行動を子どもと一緒にどうすればいいかを一緒に考えることこそ大切だと思った。	

発展・深化	E-2 8/2(水)	生徒指導上の諸課題に対する対応等について ※中堅者資質向上研修と兼ねる	滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課 主査　田中　哲郎
		・「あいさつ」「声かけ」「励まし」など、授業や行事等を通した個と集団への働きかけというのは、発達支持的生徒指導であり、普段からの関わりも生徒指導になるとわかった。 ・基本的な情報から、SNS に関わる話まで、例を挙げながら聞けたので、自分のもっている情報を振り返り、改めることができた。	
	E-3 8/2(水)	教育相談の視点を生かした支援のあり方 ※中堅者資質向上研修と兼ねる	守山市教育研究所 相談員　小野田　祐美子
		・「SOS が言語化できるよう寄り添い、支援する」という言葉が一番心に残った。具体的に言葉で言い表せない子どもがたくさんいるので、そんなときに出てくる“行動”にしっかりと目を向け、ゆっくりでも思いを言葉にできるような教師の働きかけを大切にしたい。 ・子どもが安心できる場所であるために、「聴く」「待つ」「見る」ことの大切さについて意識しなければならないと再認識できた。	
	E-4 8/3(木)	子どもの理解と支援 ～子どもや保護者の声に耳を傾ける～	滋賀県教育委員会 SSW SV 社会福祉士　上村　文子
		・子どもを理解しようとするまなざしと姿勢の大切さや、たった一言でも受け取る側によっては大きく変わってしまうことなど、とても勉強になった。 ・「こういう場合は、こうしたらよい」と本当に具体的なお話が聞けたので、自分が相談されたときには、メタ認知で受け取り側の背景を見てアセスメントしながら話ができたらと思った。	

コミュニケーション力育成講座

実践力形成	B-1 8/2(水)	子どもの心をつかむペップトーク	日本ペップトーク普及協会 講師　土田　政代
		・まずは自分を承認すること、相手との共通のゴールを意識してポジティブな言葉に変換することの大切さを学びました。これから自分の言葉に気を付けて子どもと関わりたい。 ・自分が満たされてないと他の人を満たせないということが心に残りました。 ・ポジティブな言葉をかけてもらうことで気持ちが前向きになることを実感できた。子どもたちにも自分自身のことが好きになり、自信が持てるような声かけをしていきたい。	
	B-2 8/17(木)	教師の「話し方/コミュニケーション」の基本 ～一人も落ちこぼさない、笑顔あふれる教室をめざして～	社会教育文化振興課 推進員　野村　幹夫
		・コミュニケーション能力をつけるためのいろいろなポイントを具体的に例をあげながら教えていただきました。 ・話すのはいつも緊張してしまいますが、子どもに対しても保護者に対しても明るく元気に相手の立場に立って話せるように気をつけたいと思います。	

教師力・人間力向上研修講座

H 8/18(金)	人の根を育てる ―「いのちの教育」と自尊感情―	日本ウェルネススポーツ大学 教授　近藤　卓
	・自尊感情は「共有体験」をすることで、少しずつでも育てていくことができるということがわかり、2学期から早速実践していこうと思いました。 ・子どもたちがありのままの自分を大切にできる気持ちをもち、その心をふくらませていけるよう寄り添っていきたいと思った。	

授業力向上研修講座

実践力形成	C-1 7/24(月)	子どものゴールの姿から『逆向き設計』で カリキュラムした授業づくり	中洲小学校 教諭 岸本 和旭
		・授業で学ばせたいことを教師が明確にして、わかりやすい例文を示したり、伏線となる発問をしたりすることで、より学びが深まると思った。 ・子どもに「期待する姿」と「おしい姿」を予想することで、子どもが議論する授業スタイルになっていくことがわかり、これからの授業づくりが楽しみになってきました。	
	C-2 7/26(水)	シンーズガコウサク 自尊感情を育てる図画工作の学習	学校教育課 教員支援アドバイザー 大西 健之
		・子どものよさを生かすことや子どもの発達段階を考えること、子どもがやってみたいと思える題材との出会いなどを意識し、子どもと共に楽しもうと思えるようになりました。 ・「先生これでいい？」ではなく、「先生みて！」が引き出せるような授業を目指していきたいと思いました。	
	C-3 7/31(月)	授業づくりは学級づくりから！ 「市内の先生から学ぶ学級経営の考え方	守山小学校教諭 井上 理奈 守山北中学校教諭 淺野 智子
		・授業のスキマ時間を使ったり、システム化したりすることで楽しいことはたくさんできるし、それによって子どもたちもよいサイクルにのることができることがわかりました。 ・学級集団をつくっていく中で、生徒が主体的に自分から周りとの関係をつくっていこうとするために、学級会の活用が大切になることを知った。 ・学級通信を書くことを目標としてしまっていたため、子どもたちに「このようにかえせるのか！」と学びました。2学期の学級会、学級通信をがんばってみようと思います。	
	C-4 8/4(金)	理科で考える力を育もう ～単元や授業の構成のしかた～	守山南中学校 教諭 髙山 孝介
		・子どもたちの興味・関心に引っかかる話題ときっちりリンクさせていくことが必要で、教科書の話や内容で終わるのではなく、実生活につなげてあげるのも教師の役割だと学んだ。 ・授業の組み立てで悩むことが多かったが、振り返りシートの単元の問いを考えることで自然と組み立てをすることができるので、自分でも作ってみて、授業の組み立てにつなげていきたいと思いました。おもしろい授業を目指してさらに学んでいきたいです。	
	C-5 8/9(水)	良さを引き出し、自分の生き方について 考えを深める道徳の授業づくり	長浜市教育委員会事務局 教育指導員 横尾 俊美
		・模擬授業を通して、発問や切り返し、話し合いのさせ方などがよくわかりました。また、教師自身が教材を深く知り、授業を楽しむことがよい授業になると感じました。 ・模擬授業を受けたことで、時間配分、聞き方、話し方等、具体的に実践できることを学ぶことができました。2学期以降の授業に活かしていきたいです。	
	C-6 8/17(木)	主体的・対話的な学びの視点からの授業づくり ※中堅者資質向上研修と兼ねる	滋賀県総合教育センター 研修指導主事 中井 やよい
		・主体的・対話的で深い学びの視点で授業づくりをするために、各単元でどのようなゴールを設定して、子どもたちに必然性をもたせて学びを進めることが大切だとわかった。 ・異校種の先生方と交流し、多くの先生方の意見を聞けたことは意義深いものであった。	
発展・深化	F-1 7/31(月)	めあてから探究へ深い学びに向けて ～算数科授業創りの「落とし穴」～	滋賀短期大学 教授 久米 央也
		・どうしたら子どもの心が動くか考えること、教師の学ばせたいことと子どもが学びたいことを一致させることの大切さを学びました。 ・「めあてを提示するタイミングは子どもの心が動いたときに」という言葉を忘れずに、これから授業づくりに努めようと思います。	

発展・深化	F-2 8/4(金)	学びを実感できる授業づくり ～読み解く力の育成を通して～	瀬田小学校 校長 村田 耕一
		・一番大事なのは、子どもたちが「やりたい！」「伝えたい！」という意識がないと、主体的な学びは生まれないことと「目的意識」だということを改めて確認できました。 ・「読み解く力をつけるのではなく、授業を考える上で読み解く力のプロセスを通ると、子どもたちにとって学びの深い学習になる」ということにハッとさせられました。	

特別支援教育研修講座

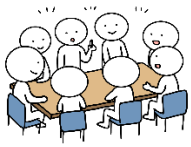
実践力形成	D-2 7/25(火)	読み書きが苦手な子どもへの理解と支援 ～何が苦手なの？どうしたらいいの？～	小津小学校 教諭 伊藤 邦子
		・「やりたい！」「がんばりたい！」という子どもの気持ちを維持するためにも、子どものことを肯定しながら、この子にはこういう困難さがあるかもしれないとアンテナをしっかりはって関わりたいと思った。 ・実際に苦手な子が困っている状況を体験することで、これからの些細な声かけや丸つけも工夫していこうと思った。	
発展・深化	G-1 8/1(火)	ワーキングメモリ（WM）の理解と 児童生徒への支援について	びわこ学院大学 元教授 小西 喜朗
		・安心した環境でないと WM はが下がる、知らない言葉に出会うと、WM がいっぱいになり説明が入ってこない…など、今までを振り返り、そういうことだったのかと納得できた。 ・WM の理解について、私たちも“負荷がかかる”という点を実感できる時間があり、とても理解が深まった。	
	G-2 8/22(火)	共に育つ学校教育をめざして	守山中学校 元校長 岩井 知子
		・日々、子どもと関わっていると、目先の教科指導や対応にとらわれがちになるが、社会適応、社会自立とその子の育ちを長い目でとらえることの大切さを再確認できた。 ・具体的な経験や実体験の話を詳しく聞かせていただき、話に引き込まれた。学校での組織、チームのあり方、大切さ、子どもの見立て対応がよくわかった。	

幼児教育研修講座

I-2 7/12(水)	幼児期の運動能力を育む遊びの実践 ～保育者も一緒に体を動かして遊ぼう～	浮気保育園保育士 堀川 真吾 中洲こども園保育教諭 板坂 果歩 認定こども園守山幼稚園教諭 春尾 浩暉
	・“これはこうして遊ぶもの”という認識を一度やめて「この道具でどんな動きができるか」を考えることで遊びが広がったり、運動機能がより発達したりするのだと思いました。 ・遊び方を限定せず、子どものアイディアも取り入れながら遊ぶと、子どもの興味を引き出しながら多様な動きの経験ができるので、様々な遊びをやってみたい。	
I-3 8/22(火)	これからの保護者支援のあり方 ～乳幼児期の愛着形成と子どもの育ちを支えるために～	滋賀県教育委員会 SSW SV 社会福祉士 上村 文子
	・保護者の思いを考えながら認めたり、話を聞いたりすることが、保護者を安心・安定させて、子どもへの対応も変わってくるのだということがわかりました。 ・「困った子は、困っている子」しっかり胸にきざみ、一人ひとりと関わっていきたい。子どもの視線で子どもの思いに気づくことができる保育者でいたいと改めて思った。	

延べ 495 人の多くの方にご参加をいただきました。ありがとうございました。提出いただいた各講座のアンケートを参考にし、今後も教育現場のニーズにお応えできる研修講座を計画していきたいと思います。

第8回生徒会サミットを開催しました



令和５年８月９日（水）、市立守山中学校に市内５中学校（県立守山中学校は都合により欠席）の生徒代表者が一堂に会し、第８回生徒会サミットを開催しました。

まずは、各校から自分たちが考える「交通マナー」「スマホ」に関する最上位目標について、報告を行いました。全体の協議では「わかりやすく覚えやすい言葉がいいのではないか」「具体的にイメージできる方がいい」「具体例を出すと、そこに焦点化されてしまう」など、活発な意見交流がなされました。その結果、「交通マナー」では、『みんなが守り守られている守山市』を、「スマホ」では『スマホに利用されない世界を！』を最上位目標と決定しました。その後、最上位目標を達成するためにポスターの原画づくりを行いました。６つのグループに分かれ、ＰＣも活用しながら構図を検討していきました。ここからの活動には、青少年育成市民会議の方々にも各グループに分かれて参加いただきました。教室や校舎内で新たに画像を撮影するグループもあり、それぞれが工夫を凝らしてポスターの原画を作成しました。

最後は全体研修会です。今回のサミットが３年生にとっては、最後となります。今までサミットに関わってきた思いや今後に向けての願いなどを、各校から代表者が発表しました。「他校の人といろいろ交流することは、本当に楽しかった」「積極的に発言することで自分の視野も広がるし、そのことは少しずつ自信となっていった」「“もっとできることがあったのではないかと思う”と、悔いが残るところもある」など、今までの経験・体験から熱い思いを伝えてくれました。３年生からのメッセージは、次代を担う１・２年生にしっかりと引き継がれたと感じました。

今回のサミットも、教育長や社会教育・文化振興課長にも参観いただきました。また、閉会行事では青少年育成市民会議の杉本会長から激励の言葉もいただきました。子どもたちにとって、今までの活動を振り返るとともに、これからの活動意欲を高める、たいへん充実した時間となりました。

なお、サミット終了後には、「なあ、みんなで記念撮影しよう！」という声が上がり、急遽全体での写真撮影を行いました。守山市生徒会サミットメンバーの団結の表れと、うれしくなりました。

また、運営を担当してくれた市立守山中学校生徒会のみなさんのテキパキとした動きと、ユーモアを交えた明るい司会の雰囲気が、今回の生徒会サミットを支えてくれました。ありがとうございました。

１　今後の活動について

（1）各校で始業式等の時間を利用して、生徒会サミットでの活動を広く周知していく。

（2）今回作成した啓発ポスターを活用し、
　　各校で２学期に啓発活動を行っていく。

今回作成したポスターです（一部）

２　次回の開催について

令和５年 12 月上旬に予定しています。次回からは、新生徒会メンバーでのサミットとなります。

教育相談・
くすのき教室より

教育相談コラム

ＮＨＫ「あさイチ」で放送されました（2023.8.30）

いま“親として”向き合う不登校

番組で下の「学校を休ませた方がいい？ 悩んだときのチェックリスト」（不登校新聞･キズキ共育塾･Branch 作成／松本俊彦医師監修）が紹介されました。左の項目について、「この１か月で当てはまるものがあるかを確認してください」というのですが、お子さんにあてはまる状況はあるでしょうか。

文部科学省も、不登校の児童生徒に対しては「学校に登校するという結果のみを目標とするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉え、社会的自立を目指せるように支援を行うことが求められる」（「生徒指導提要＝改訂版＝」による）と、支援の方針を転換していますから、「１つでも当てはまったら休ませましょう」とすることは、間違った判断ではありません。

ただ学校に行かなくなったらすべて改善するかと言えば、そううまくはいかない現実があります。本人には直ちに「社会的自立を目指せる」ようなエネルギーが不足していることが多いからです。また、学校に行かなくなった我が子に対して、保護者が「どうしてやればいいんだろう」「本当に学校に行かなくていいのか」などと悩むことが増えてきます。

そんな時、守山市では教育相談ができる体制を整えています。学校には行きたくないけれど、家に閉じこもっているのも‥‥という子どもには「くすのき教室」という居場所もあります。学校を休みかけたら、あるいは休む兆候が見られたら、まずはご相談ください。

◎教育相談・くすのき教室へのご相談・ご連絡　077-583-4237

1	週1回以上 身体の不調を訴えるなどして保健室など教室以外の場所を利用している	1つでも当てはまったら 休ませましょう
2	登校時間が近づくと頭痛･腹痛･吐き気など身体的な症状を訴える	
3	身体的な不調や病気が毎月 起こっている	
4	不安を訴えたり「死にたい」「消えたい」などと話したりする	
5	なかなか寝つけなかったり夜中に何度も目が覚めたりするようだ	
6	1週間以上 欠席が続いている	1つでも当てはまったら 休ませた方がいい
7	週に1回程度は 遅刻や早退がある	
8	「学校に行きたくない」と言っている	
9	無断欠席が発生している	
10	学校でいじめや仲間外れにあっている	
11	学校でトラブルにあっている	
12	人の視線やうわさを非常に気にするそぶりが見てとれる	1つでも当てはまったら 親子で対話を
13	部活動や校外活動（スポーツ･習い事など）をやめたがる発言がある	
14	友だちと会ったり 遊んだりすることを避けることがある	
15	朝食 身じたく トイレ等に時間がかかりすぎて遅刻することがある	1つでも当てはまったら 「不安なことある?」と聞いてみる
16	すぐにイライラするようだ	
17	以前よりも服装や身なりに無頓着になり だらしなくなっている	
18	課題や宿題が提出できないことがある	
19	過度に甘えたり わがままになることがある	
20	自分の体を傷つけたり 家族やペットに暴力（たたく･けるなど）をふるう	

お知らせ

陶芸体験　思いをこめて…「チブルシーサーづくりに挑戦」

令和５年１１月２１日（火）10:00～12:30（受付 9:30～）
守山市生涯学習・教育支援センター(エルセンター)
講師：「滋賀県立陶芸の森」所属の陶芸家　３名
体験料：無料　保護者は 500 円

※申し込み用紙は、各小学校にあります。
詳しくは、教育研究所または各小学校にお問い合わせください。

「学校に行きたくないな」と思っている小学生のみなさん、エルセンターで陶芸にチャレンジしてみませんか？　「土」に向き合い、世界でただ一つの「チブルシーサー」を作ってみましょう。
専門の先生が丁寧に教えてくださいます。他の人はどんな作品を作るのかな？　そんな楽しみも感じながら作品を完成させましょう。